

KITAKEI-Report

No.155
July2022発行：北恵株式会社 〒541-0054 大阪市中央区南本町3-6-14 TEL.06-6251-6701
<http://www.kitakei.jp/>

建築物省エネ法改正案国会で成立

建築物省エネ法の改正案が6月13日に参議院本会議で可決・成立しました。これにより、2025年以降は新築される全ての住宅・非住宅に対し、断熱性能を省エネ基準に適合させることが求められるようになります。また防火や構造において規制の合理化が図られる他、木材利用の促進なども

盛り込まれています。

今後我が国の住宅の基準となる同制度。脱炭素社会実現に向け、大きな役割を果たすことが期待されます。読者工務店の皆さまは改めてその内容を把握した上で、十分対応できるよう準備を進めて下さい。

がんばろう！工務店

昨年来から木材や鋼材といった主要建築資材の高騰が続いています。さらにウクライナ侵攻に対する制裁措置などの影響から、ロシア産の様々な天然資源を入手しづらくなっています。今後の両国情勢次第では、多方面でさらなる影響が生じる恐れも否定できません。こうした中、住宅の建築費用も全国的な上昇傾向にあります。もともと高価格帯だった大手ハウスメーカーの坪単価はさらに上昇。契約を締結しても資材や労務費が値上がりした場合、最終支払金額もスライドする条項を設ける企業もあり、お客様サイドからは総支払額が見えず、契約に結びつきにくくなっているとの話も聞かれます。そのため、相対的に建設費用の安価な工務店などに価格上昇を嫌う住宅建築予定者が流れている可能性も考えられます。

とはいえ、住宅業界全体で現在、資材・建材不足から工事が終了できない問題が存在しています。もちろん、必要な資材・建材が手に入らなければ、施工時期や人手の見通しもままならないでしょう。工務店にとって辛いのが、あくまで施工者側は受け身の立場に置かれてしまうという点。住設機器や木材生産の問題は、川上側の体制が整わない限り、解消されることはありません。

仮に建材・資材を入手できたとしても、契約時

と比べ、大幅に価格が高騰していた場合、上昇分を自社で被っていたら経営が成り立たなくなります。本来ならば値上げ分を負担していただくことが理想的なのでしょうが、お施主様にも生活がある以上すんなりとはいかないのが現実です。このせめぎ合いをどうするか、経営する上で判断が必要となります。

こうした社会情勢下において、どのような経営をすればリスクを回避できるのでしょうか。選択肢は多くありませんが、今後契約する案件として例えばリフォームの場合、入手の難しい部材を利用する工事は避け、確実にこなせる部分で仕事を確保していくのも一つの手といえます。また、改めて自社の収益体制や方針を見直すことも有意義な作業といえます。探してみれば、自社で利用可能な補助制度があるかもしれません。

残念ながら当面、現状の物不足・価格上昇は続くと予測されます。それならば現状を嘆くのではなく、自社が変革するためのチャンスが訪れたと捉えてみるのはいかがでしょうか。できることから取り組むことで、何か新たな打開策も見つかるかもしれません。将来、自社の発展に寄与する手がかりがみつけれられるのであれば、このコロナ禍の苦境も無意味なものとはならないはずです。

北恵2年目社員が知りたい！建築業界で働く同世代の今！

株式会社クレイル「期待の若手社員」外構コーディネーター 米澤薫さん
レポート担当が若手目線でインタビュー。20代同士、小学生時代のブーム『どうぶつの森』で家づくりを学ぼうと盛り上がりました。



GARDENS GARDEN

株式会社クレイル 施工事例 -GARDENS GARDEN事業-

「入社後すぐ担当したお客様に提案が採用された」と伺いました。

完全オーダーメイドで、建築家と一緒に「こだわって建てられたお客様でした。私が入社したのは、外構プランを決め始めるタイミングでした。既に建築家の先生がお客様の意向を盛り込んだ外構プランを作成済みでしたので、そのイメージを壊さず、土地・予算に合わせた計画を再度お打ち合わせし、ご契約いただきました。4方位全てに樹木を植える計画があり、「木はお任せします」と言っていたので、大阪の北野緑生園で一本ずつ樹形を確認しながらイメージに合うものを選びました。植え込み時はお客様に立ち会いたいただき、更に素敵なおうちになったと感じます。

「お施主様から植栽を指定されることはありませんか。」

あります。人気が高いのはオリブとモミジです。弊社に来られるお客様はシンプルテイストや、

「反対に樹木を植えたくない方もいらっしゃるのでは？」

「素敵だけ、お世話が大変。だし選定の仕方がわからない」といった理由で木を植えたくないと仰られます。ですが、奈良県は景観条例で緑地率が設けられている地域もあります。そういった場合は、パースの段階で樹木計画をたて、植え込み前後の比較をお見せすることで、景観の違いを感じていただきます。提案次第で、シンボルツリー一本頑張ってみようと思ひ出してくださる方も多くいます。

「コロナ禍を経て、エクステリアへの関心は高まったと感じますか。」

感じます。アウトドアリビングの需要が増えており、「おうちでキャンプをしたいから薪ストーブで囲炉裏を組みたい」「外食ができないからお庭でお酒が飲みたい」とお庭づくりを依頼され

た方も実際にいらっやいます。他にも、小学生のお子様がいっやいられる方は、「お友達と遊ばせてあげたいけれど、おうちにあげるのが憚られる」といった理由でお庭づくりをされました。おそと空間で使用する商品はどこで購入すればいいかわからないという方も多くいます。量販店には多くの関連商品がありますが、お施主様が求めるオシャレなものはありません。商品も併せてご提案しています。

「人気の外構はありませんか。」

最も人気が高いのは、モルタル系の仕上げと門柱タイルです。流行の「くすみカラー」に合うシンプルで不要ものをそぎ落とすようなイメージです。#丁寧な暮らしです(笑)

「外構の提案で心がけていることはありますか。」

まず、弊社は敷地全てを家づくりと考えています。お庭・外構全て含めて初めておうちが完成します。室内から見た景色、間取りを読み解き、中と外という枠を設けずトータルコーディネイトしています。その中で、おうちをいかによく見せるかが心がけています。外構はおうちの顔で、フェンス一つでも縦向きか横向きかで印象が変わって

きます。Oベースで空間創りができる外構なので、せっかくなら唯一無二にしたいと思ひ、周囲のおうちと被らないよう、現調に行った際は近隣の散策をしています。

「やりがいを感じるのとはどんな時ですか。」

図面を初めてお施主様にお出した際に、「うち、こういう風になるんだ」「このデザインが好き」などと言っていただけの時は描いてよかったと思ひます。樹木の植え込みや最後の照明計画が終わった後、一気に雰囲気が変わった様をお施主様と見られるのは嬉しいです。自分がデザインしたものが形に起こされ、お施主様と一緒にこだわったものが、出来上がっていくのはやりがいに繋がります。

「外構コーディネートで参考にされるものはありますか。」

DIY番組や、飲食店のテラス席を参考にすることもあります。DIY番組では、タレントさんが「ここが俺のコードワリやねん」と言われて

いるのは、気持ちもわかりますし参考になります。飲食店でいいなと思ひた樹木は携帯で撮影し、調べています。

「今後は私たちのような、Z世代が住宅購入世代となりますが、Z世代へのアプローチ方法はありますか。」

やはりInstagramです。ネットに強い世代ですので、情報収集にInstagramは欠かせません。Instagramで検索したお写真で「こんな風にした」と持つてこられるお施主様も多く、打ち合わせ中に一緒にInstagramで検索することもあります。今は勉強会やポスティングでの集客がメインですが、今後はSNSを強化したいと社内でも話しています。

「今後の展望についてお聞かせください。」

今は外構を担当していますが、コーディネーターとして入社したので、インテリアから外構の打ち合わせまで踏み込める「二刀流コーディネーター」になれるよう頑張りたいです。

「ありがとうございました。」

株式会社クレイル Instagramはこちら



株式会社クレイル 米澤薫さん

大学でメディアを専攻し、営業販売商社に就職。その後、熊本の外構専門業者に転職し、約1年間務めた後、2022年2月より株式会社クレイルにてコーディネーターとして活躍。先輩コーディネーターの方には、行動力があり、物腰の柔らかさに嫉妬を感じる「期待の星」と称される。



連載：木造住宅の歩み（第19回）

6月13日に脱炭素社会の実現に向けて住宅の省エネ化を進めるため、2025年度以降、すべての新築の建物に断熱性能などの省エネ基準を満たすことを義務づける法律が、参議院本会議にて全会一致で可決・成立しました。

おそらく業界に関係の無い一般人からすると、これまで住宅の断熱基準に法規制がなく、無断熱でも住宅として問題なかったということが意外だと思われるのではないのでしょうか？

もっとも35年程前の木造住宅はまだまだ土壁造りが多かった事もあり、壁の中に断熱材を入れる事は困難でした。それでもやはり寒いですから、土壁は徐々に減り、壁に断熱材が使われるようになり、派手さはないものの必ず必要な存在となっていたのです。ただ、その使用量に法的基準が無かったということです。

建材屋にとっては30年ほど前から当たり前に販売するようになった断熱材ですが、個人的に驚きの知見に触れる事がありました。残念ながら書籍の名前は失念してしまいましたが、断熱の専門書に触れる機会がありました。そこには住宅の壁のように中空層がある壁の熱移動は6割程度を「輻射」が占めており、残り4割が「伝導」と「対流」により起こるという事が書いてあったのです。熱が伝わる要素は「伝導」「対流」「輻射」

があるという断熱の基本知識は持っていたのですが、なんと！ 私たちが一生懸命に販売してきた断熱材は熱移動の割合から言えば4割程度の効果しかないのか？ と、ちょっと衝撃的でした。「本当なの？」と…（なお、「輻射」とは電磁波の一種で主に赤外線により伝播する事から真空中でも伝わりますし、有効に止めるにはアルミのような高い反射率を持つ金属でなければ困難という代物です。輻射については後日）。

さらにもう一つ、当時は驚きというより“目から鱗”的な感覚だったのですが、断熱材は熱を伝えにくくするにはどうすれば良いかという事から始まっています。つまり熱伝導率の小さな断熱材が優秀ということになるのですが、この熱伝導率はその断熱素材によって決定していると思っっている方は今でも多いのではないのでしょうか？

実は断熱材の熱伝導率は「空気を如何にその場に固定させる事が出来るか」に掛かっています。空気は無料で手に入る最高の断熱材なのです。でも空気は対流を起こすとその流れで熱が伝わってしまいます。対流が起きない様に空気を細かく分断してその場所に固定させることが出来れば、優れた断熱材となるのです。グラスウールとかウレタンなどの素材は空気を固定させる為の手段に過ぎないのです。

空気の固定が大事



空気の固定の仕方でも熱伝導率が決まると考えると各断熱材の違いが理解できます。硬質ウレタンのようにより細かい独立気泡に空気を固定出来れば断熱性能は上がるし、繊維の中に空気を固定したグラスウールのような素材では若干空気の移動があるので断熱性能は低下します。今ではグラスウールに次いで主流となっている吹付断熱は連続

気泡。そのため、独立発泡程の空気の固定が出来ないことから断熱性能が下がってしまうという事です。

最近よく耳にするウルトラファインバブルを高密度で固定する事が出来れば優れた断熱材が出来てしまうのではないのでしょうか？それとも、ある程度以上に泡が小さくなってしまえば断熱効果はなくなるのでしょうか？興味は尽きません。ウルトラファインバブルではないけれど、多孔質材料で乾燥剤として有名な「シリカゲル」を断熱材に利用しようという研究が進んでいるようです。超微細な空間に空気を閉じ込めた構造で既存断熱材の1/2～1/5の厚みで同等の断熱性能を示すそうです。住宅への実用化はまだのようですが、断熱材も次世代に突入するかもしれません。

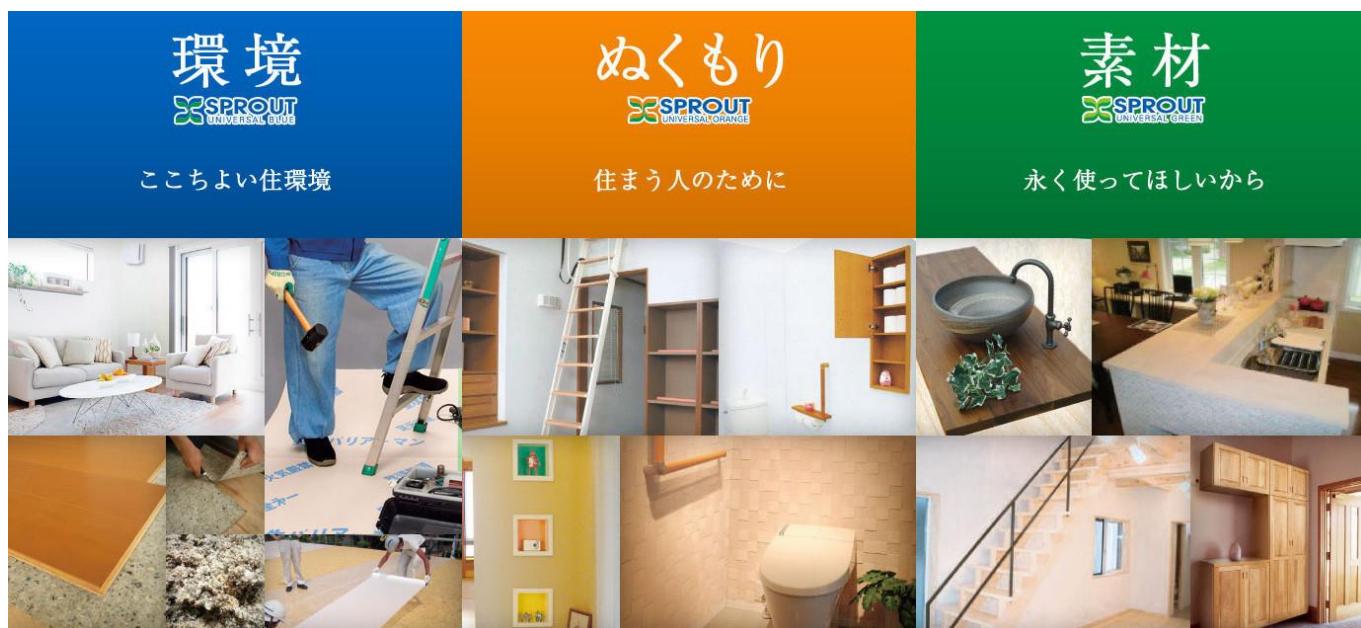
次回「日本の断熱史について」。

【つづく】 北恵レポート担当 O

キタケイの提供する2つのプライベートブランド
環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”
天然木にこだわったフローリングや壁材 “ リラクシングウッド ”
企画・製造から販売までトータルにプロデュース、心からご満足いただける住まいづくりを
バックアップします。



www.sprout-univ.com



www.relaxssingwood.com

リラクシングウッド
抗菌・ウイルス加工 フローリング ウイルスガードコート シリーズ

